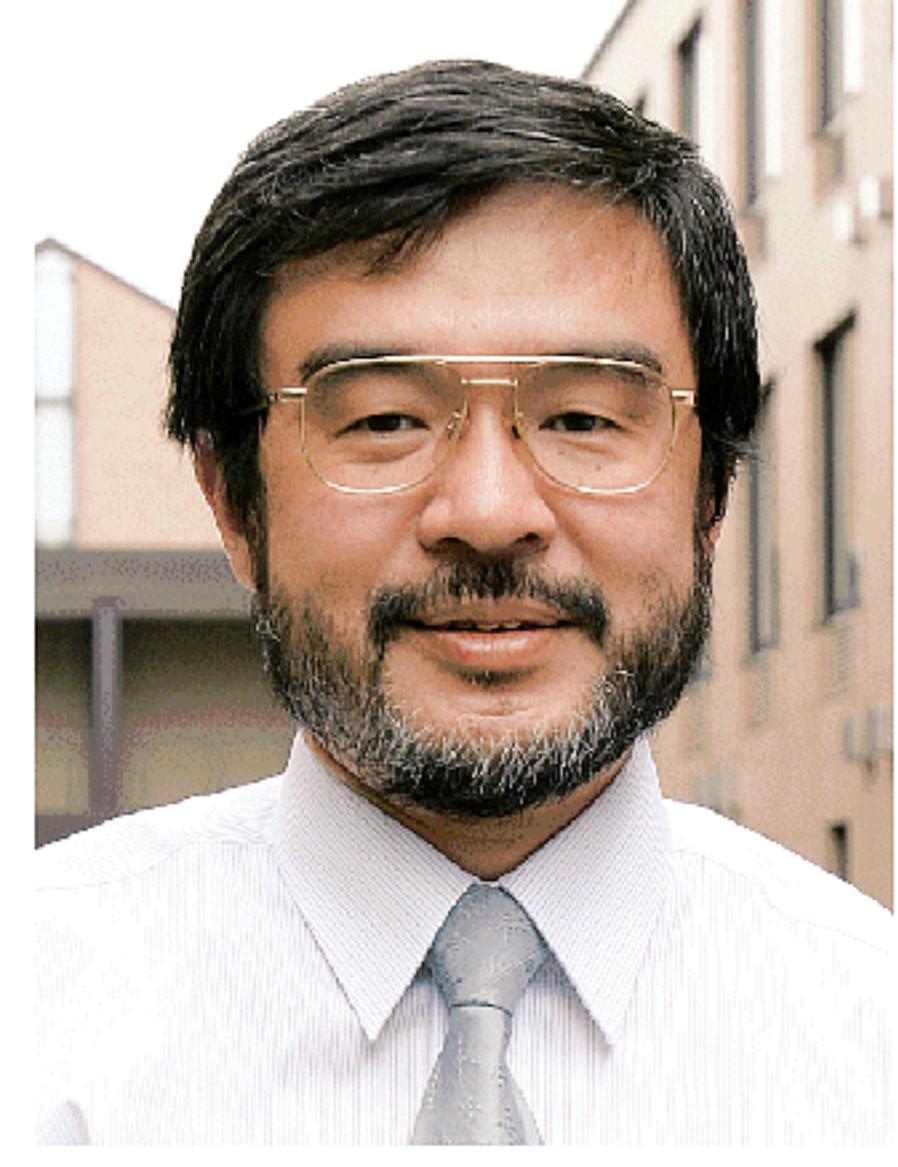


民族としての権利は実現するか —アイヌ民族を取り巻く環境から

客員所員 上村英明



PROFILE

1956年生まれ。1982年市民外交センター設立。1998年PRIME特別所員。2002年から恵泉女子大学教員。

しかし、同法は狭義の文化振興を規定したのみで、アイヌ民族の権利規定を欠いてしまった。これに対し、二〇〇八年六月には、アイヌ民族を国連が規定する「先住民族」であるとする国際決議が採択されました。そして、八月には新たな「有識者懇談会」が設置され、アイヌ民族政策の見直しが進められています。

期待されることとは、改めてアイヌ民族の権利の実現でしょう。異なる文化や歴史を持つ集団間の対等な関係構築には、これを明確な権利として認定することが基礎になります。温情主義による政策では、問題を本質から解決することはできません。

一九九七年七月、「北海道旧土人保護法」が廃止され、「アイヌ文化振興法」が制定された時、日本における多民族・多文化主義は一歩前進したかにみえました。アイヌ民族への「旧土人」という差別呼称の廃止だけでなく、同法第一条は「我が国の多様な文化の発展」を明言し、多民族・多文化社会日本を描いてみせたからです。

しかし、同法は狭義の文化振興を規定したのみで、アイヌ民族の権利規定を欠いてしまった。これに対し、二〇〇八年六月には、アイヌ民族を国連が規定する「先住民族」であるとする国際決議が採択されました。そして、八月には新たな「有識者懇談会」が設置され、アイヌ民族政策の見直しが進められています。



OUR THESIS 02

多民族・多文化の共存

多民族・多文化を超えて

所員、教養教育センター教授
佐藤アヤ子



PROFILE

英語圏文学専攻。本学専任講師を経て、現在、教養教育センター教授。日本カナダ文学会会長、日本ペンクラブ会員。

たとえ武力の行使がなくても、人種、宗教、民族の違いを理由に差別される社会は決して平和ではありません。

移民や難民、少数民族、先住民族の人たちも安心して暮らせる社会の実現可能性を探ります。

白人がアメリカ大陸にやつて来たはるか以前から先住民は北米大陸で生活していました。その先住民を除き、カナダは移民者から構成される多民族国家です。カナダ政府は、一九六九年に英語とフランス語の二言語を公用語に制定し、一九七一年には多文化主義政策を打ち出して、国民が出自由の言語や

文化を享受することを認めました。最近では、「セーフ・ヘブン」を求めてやつて来る移民を積極的に受け入れているために、カナダでは多言語化がますます進んでいます。そんな中、多民族国家カナダならではの言葉の壁を乗り越え、先端のテクノロジーを駆使してテキストに捕らわれない芸術性の高いビジュアルな演劇を広めた国際的に知られる劇作家で演出家のロベール・ルパージュがいます。東京ディズニーリゾートに常設劇場を開設し、従来のサーカスの既成概念を覆し、演劇的要素の強いショーケースを見せるケベックのサーカス芸術集団シルク・ドゥ・ソレイユには、四〇カ国の国籍を持つ大道芸人、アスリート、ダンサー、美術家などが集まっています。これらの民族、言葉の壁を乗り越えた視覚芸術は、多民族国家カナダならではの新しい表現形式として今注目を集めています。